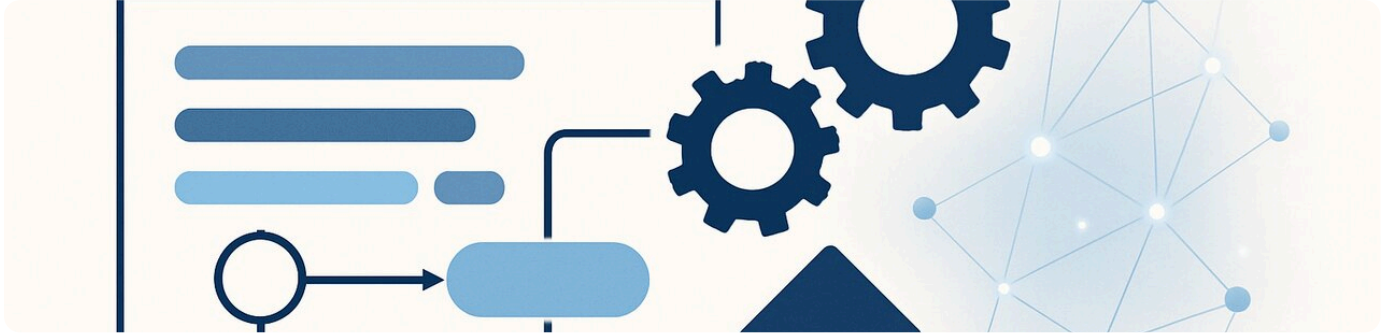


# 開発組織のための AIネイティブ開発



ご提案書



## エグゼクティブサマリー

採用難と人手不足のなか、開発組織には「より速く、より高品質に」という圧力が高まっています。生成AIを使ってはいるものの、**個人の工夫に依存し、組織の開発プロセスとして仕組み化できていない**——そんな現場は少なくありません。

本提案は、\*\*要件定義から実装・テスト・レビューまで、開発の全工程にAIを組み込む「AIネイティブ開発」\*\*を、貴社の開発プロセスに合わせて導入・定着させるものです。ただし、ツールを入れる前にまず開発プロセスを整理します。社内SE・PM・テックリード・CTOの実務経験をもとに、現場の言葉で伴走します。

## 開発組織が直面している課題

- **採用難・人手不足:** 一人あたりの担当範囲が広がり、レビューやドキュメントが後回しになる。
- **AI活用の属人化:** 一部のメンバーは生成AIを使いこなすが、チーム標準・ガイドラインが無い。
- **品質と速度の両立:** スピードを上げるとレビュー漏れ・手戻りが増える。
- **レガシー・技術的負債:** 改修や移行に時間がかかり、新規開発を圧迫する。
- **PoC止まり:** AI活用を試したが、案件・チーム全体への展開まで進まない。

## 私たちのアプローチ — AIネイティブ開発 ("導入"の前に"整理")

AIネイティブ開発とは、**要件定義・設計・実装・テスト・レビュー**の各工程にAIを組み込み、**速さと品質を両立させる**開発の進め方です。

ただし、AIは「決まった作業を速くする道具」です。**開発プロセスが曖昧なままでは効果が出ません**。そこで、まず以下を明確化します。

1. どの工程に一番時間がかかっているか（ボトルネック）
2. AIに任せる所と、人が判断する所の線引き

### 3. 速くなった/品質が上がったを、何で測るか

これが言語化できれば、ツール選定もチームへの展開も進めやすくなります。

## 想定ユースケース（優先度つき）



| 優先  | 工程        | 具体例                         | 効果の測り方（例）  |
|-----|-----------|-----------------------------|------------|
| ★★★ | 実装・コード生成  | 雛形/ボイラープレート生成、実装補助、リファクタ支援  | 実装リードタイム   |
| ★★★ | テスト・レビュー  | テストコード生成、多層レビューによる品質チェック    | 不具合検出率・手戻り |
| ★★☆ | 要件定義・設計   | 要件整理・仕様書/設計のたたき台、抜け漏れチェック   | 上流の手戻り削減   |
| ★★☆ | ドキュメント    | 仕様書/README/コメント/引き継ぎ資料の自動生成 | 作成工数       |
| ★★☆ | レガシー改修・移行 | 既存コードの解析・移行・置換の支援           | 改修工数・期間    |
| ★☆☆ | 見積・PM支援   | 工数見積の素案、進捗・リスクの整理           | 見積精度・PM工数  |

★は着手しやすさ・効果の出やすさの目安。貴社の開発スタイルに応じて優先度を一緒に決めます。

## 進め方（フェーズと成果物）



### フェーズ1：現状整理（目安 2～3週間）

- 開発プロセスの可視化、ボトルネックの特定、AI適用候補と"人が判断すべき所"の仕分け
- 成果物：開発プロセスマップ、優先施策リスト、想定効果と進め方の提案

### フェーズ2：PoC（1チーム/1案件 | 目安 4～6週間）

- 最も効く工程で試行し、速度・品質への効果を検証
- 成果物：試作（プロンプト/テンプレート/レビュー手順）、効果測定レポート、展開可否の判断材料

### フェーズ3：チーム定着（継続）

- チーム標準・ガイドライン化、レビュー体制への組み込み、教育・運用サポート
- 成果物：AIネイティブ開発ガイドライン、レビュー基準、テンプレート群

※ 期間は規模・対象工程により前後します。まずはフェーズ1単独からでも開始可能です。

## 品質・セキュリティ

- **AI生成物は必ず検証:** 生成コードはレビュー・テストを通す前提。**多層レビュー**で速さと品質を両立。
- **コード/顧客データの取り扱い:** 機密コード・顧客データを学習・送信しない構成、クローズド運用の選択肢。
- **ライセンス・コンプライアンス:** 生成物のライセンス/権利面の確認手順を整備。
- **判断と責任は人が持つ:** 設計判断・リリース判断は人が行う前提で設計します。

## 体制と進行

- 社内SE・PM・テックリード・CTOの経験をもとに、**要件整理～開発～運用まで一貫して伴走**。
- 既存の開発チームに入り込み、**現場の進め方に合わせてAIネイティブ開発を組み込みます**。
- スポット（PM/テックリード/CTO代行・レビュー支援）から、継続支援まで対応。

## 料金・始め方

- **入口：5万円のAI活用診断** — 開発プロセスの整理と「どの工程にAIが効くか」のご提案。
- **無料相談** — 要件が固まっていない段階でのご相談を歓迎。
- フェーズ2以降は、対象工程・規模に応じて個別お見積り。**1チーム・1案件から小さく始められます**。

## 実績（抜粋）

- **不動産 | CTO:** オンプレ→クラウド移管を、インフラ・アプリ両面から要件定義～納品まで一貫
- **医療 | ウェアラブル/クラウド聴診バックエンド:** 開発PMとして要件定義～納品（開発チーム）
- **広告 | 自動出稿・キーワード提案ソフト:** テックリードとして開発を主導
- **社内SE | 上場企業:** 業務改善・ベンダー管理・監査対応まで一貫（約5年）
- **教育 | 採点業務システム:** PMとして約1年・継続中（開発チーム連携）

守秘のため社名は伏せています。商談時に可能な範囲で詳細をご説明します。

## よくあるご質問

**Q. 既存の開発フローを大きく変える必要がありますか？** A. いいえ。現状のプロセスに合わせて段階的に組み込みます。まず1工程からでOKです。

**Q. AI生成コードの品質・セキュリティが不安です。** A. 生成物は必ずレビュー・テストを通す前提で設計し、多層レビューで品質を担保します。機密の取り扱いも構成段階で固めます。

**Q. PoCで終わってしまわないか不安です。** A. 最初からチーム定着・標準化を見据えて設計します。効果を測りながら展開します。

**Q. スポットだけ・短期だけでも依頼できますか？** A. はい。PM/テックリード/CTO代行やレビュー支援など、スポットからご相談いただけます。

## 次のステップ

1. 無料相談（オンライン可）で、開発体制と課題工程をヒアリング
2. 5万円のAI活用診断 / フェーズ1（開発プロセス整理）から着手
3. 1チーム・1案件でPoC → 効果を確認し、チーム標準へ

**オーバーライト株式会社（OVERWRITE INC.）** 神戸 | Web: [overwrite.jp](https://overwrite.jp) | お問い合わせ: [overwrite.jp](https://overwrite.jp)  
の問い合わせフォーム



スマホで読み取り → [無料相談へ](#)

[overwrite.jp](https://overwrite.jp)（お問い合わせ・5万円AI活用診断はこちら）